

## 私の職業奉仕

この秋、妻の大学時代の友人が、ご家族とともに山形を訪ねてくれました。カナダの大学で共に学んだメキシコ人で、当時は仲の良い姉妹のように過ごしていたようですが、実に40年ぶりの再会です。

7人乗りの車を借り、山寺、酒蔵、蔵王のジャンプ台や温泉、山形の居酒屋、そして座敷での宴会と、いわば、お決まりのコースを巡りましたが、思いのほか楽しんでもらえたようでした。初日は某委員会の懇親会があったため、東京から長女を呼び寄せて手駒を増やし、二日目は私も加わっての大宴会。わが家にとつては、日常の延長にある楽しいイベントでした。

もともと、彼らが山形でこれほど楽しんでくれたのは、私たち家族の力というよりは、山寺の仲間、酒蔵の仲間、居酒屋や割烹の友人たちの協力、そして何より天候に恵まれたおかげでした。

「ぜひ山寺に登りたい」という大胆な申し出に応じ、私も何十年ぶりかで同行し、はあはあ息を切らしながら、山寺の解説などをしてみました。その間、妻と友人は茶室でずっと楽しく談笑していたそうです。昼の時間帯、私は車中でリモート会議に参加していたのですが、その間も、山寺の仲間の奥さんとお嬢さんが妻と一緒にランチのお相手をしてくれていました。

酒蔵では、社長自らが英語を駆使し、実際に酒蔵の見学をしながら醸造の工程を解説し、試飲会までしてくれました。さらに面白かったのは、長女がスマートフォンの翻訳アプリを使ってスペイン語でやり取りをし、東京に戻ってからは浅草・上野ツアーにお連れした、とのことでした。

来年も来てくれることになったので、今回は慈恩寺と羽黒山までご案内しようと思っています。

さて、これのどこが「職業奉仕」なのか。職業奉仕は Vocational Service の対訳です。通常使われる「職業」を表す occupation、さらに、profession、job、Career ではなく、vacation。この言葉には、「使命」や「天職」といったニュアンスが含まれています。

つまり、単に職業の範囲にとどまらず、これまで職業活動、地域活動、ボランティア活動などを通じて培ってきた能力や経験、いわば「才能の種」を、社会のために活かすこと、という概念だと私は思っています。

私にとって今回の出来事は、感覚的には職業奉仕60%、社会奉仕30%、国際奉仕10%といったところでした。自身の経験やネットワークを活かした活動であって、同時に山形の「関係人口」を増やすことにもつながった、そういう意味で、ロータリーが目指す奉仕の姿に通じていると感じています。

また、ロータリーの五大奉仕は、それぞれが完全に独立しているのではなく、相当部分が重なり合っています。ロータリーに「絶対こうしなければならない」というモノはなく、原理原則を理解したうえで、自分自身のロータリーをつくっていくのがロータリアンではないかと思えます。

この文章を読んで、伊藤三之DPGがどんな反応をしてくださるのか。それがいま一番の楽しみです。